

# 岩手沿岸南部クリーンセンター基幹的設備改良事業

## 審査講評

令和7年11月5日

岩手沿岸南部クリーンセンター  
基幹的設備改良事業  
整備・運営事業者選定委員会

## < 目 次 >

1. 事業概要	1
(1) 事業名	1
(2) 本事業の対象となる公共施設等の名称及び種類	1
(3) 公共施設等の管理者	1
(4) 本事業の目的	1
(5) 本施設の概要	2
(6) 事業期間	3
(7) 事業の対象となる業務範囲	3
2. 岩手沿岸南部クリーンセンター基幹的設備改良事業整備運営事業者選定委員会	4
3. 審査方法等	4
(1) 入札の方法	4
(2) 審査方法	4
4. 落札者決定の経過等	6
5. 審査結果の概要	7
(1) 応募者	7
(2) 入札参加資格審査	7
(3) 入札参加資格審査結果の通知	7
(4) 基礎審査	8
(5) 非価格要素審査	8
(6) 価格要素審査	11
(7) 総合評価点の算出及び落札者の選定	11
6. 総評	12

(用語の定義は、入札説明書の用語の定義に準じるものとする。)

## 1. 事業概要

### (1) 事業名

岩手沿岸南部クリーンセンター基幹的設備改良事業

### (2) 本事業の対象となる公共施設等の名称及び種類

名称 : 岩手沿岸南部クリーンセンター

種類 : 一般廃棄物処理施設

### (3) 公共施設等の管理者

岩手沿岸南部広域環境組合 管理者 釜石市長 小野 共

### (4) 本事業の目的

組合では、平成 23 年 4 月に本施設が稼働してから DBO 方式で定期保守点検を実施し、性能の維持に努めることで多様なごみを安全かつ安定的に処理している。

こうした中、本施設は、稼働から 13 年が経過しており、整備が必要な個所が多くみられる状況であることから、今後機能回復等の補修を行い、ストックマネジメントを計画的に実施し、施設の安定操業に努めていく必要があるところである。

このような状況を踏まえ、組合では、本施設の長期的な使用を図るための適切な維持保全や延命化工事等による計画的かつ効果的・効率的な維持・整備が必要であると判断されることから、本工事を実施することとし、さらには施設の運転を長期的に委託することで、安全かつ安定的なごみ処理を継続していくことを目的に本事業を実施するものである。

(5) 本施設の概要

項目		内容
施設名称		岩手沿岸南部クリーンセンター
施設所管		岩手沿岸南部広域環境組合
所在地		岩手県釜石市大字平田第3地割81番地3
面積		敷地面積：21,151.7 m <sup>2</sup>
焼却対象物		可燃ごみ、粗大ごみ、破砕残さ
処理方式		シャフト炉式ガス化溶融炉方式
処理能力		ごみ処理施設：147t/24h (73.5t/24h・炉×2基) 破砕処理施設：10.5t/5h
建設年月		着工：平成20年8月、竣工：平成23年3月 稼働開始：平成23年4月
工場棟	受入・供給設備	ピット・アンド・クレーン方式
	副資材供給設備	ホッパ方式
	溶融設備	充填層式型シャフト炉
	燃焼設備	旋回燃焼方式
	燃焼ガス冷却設備	廃熱ボイラ方式
	排ガス処理設備	ろ過式集じん式 (尿素・消石灰・活性炭吹込)
	給水設備	上水利用
	排水処理設備	・生活排水 下水道放流 ・有機系排水 簡易ろ過後、燃焼室噴霧 ・無機系排水 簡易ろ過後、減温塔噴霧水利用
	余熱利用設備	蒸気タービン発電
	通風設備	平衡通風方式
	溶融物処理設備	水冷方式
飛灰処理設備	薬剤処理・ホッパ方式	
その他	計量棟、洗車場、車庫棟、スラグストックヤード、メタルストックヤード、安定化灰ストックヤード、管理棟 (組合事務室、研修室、打合せ室、浴室、浴室受付スペース等)、駐車場、緑地等	

## (6) 事業期間

### ① 設計・建設業務期間

令和8年4月から令和12年3月まで（4年間）

### ② 運営・維持管理業務期間

令和8年4月から令和23年3月まで（15年間）

## (7) 事業の対象となる業務範囲

### ① 事業者が行う業務

#### 1) 本施設の設計に関する業務

- (ア) 本施設の設計
- (イ) 組合が提示する調査結果以外に必要な事前調査
- (ウ) 組合が行う二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金の申請支援
- (エ) 設計に係る許認可申請等
- (オ) その他これらを実施するうえで必要な業務

#### 2) 本施設の建設に関する業務

- (ア) 本施設の基幹的設備改良工事
- (イ) 組合が行う二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金の申請支援
- (ウ) 完了実績報告、事業報告の支援
- (エ) 本工事に係る許認可申請等
- (オ) 事業者が実施する業務に関連する近隣対応
- (カ) その他これらを行ううえで必要な業務

#### 3) 本施設の運営・維持管理に関する業務

- (ア) 運営準備業務
- (イ) 受付計量業務
- (ウ) 本施設の運転管理業務
- (エ) 本施設の維持管理業務
- (オ) 本施設の環境管理業務
- (カ) 本施設の防災管理業務
- (キ) 本施設の情報管理業務
- (ク) その他関連業務
- (ケ) その他これらを行ううえで必要な業務

## ② 組合が行う業務

### 1) 本施設の設計・建設に関する業務

- (ア) 二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金の申請
- (イ) 近隣同意の取得、事業者が実施する業務以外の近隣対応
- (ウ) 本施設の設計・施工監理
- (エ) その他これらを行ううえで必要な業務

### 2) 本施設の運営・維持管理に関する業務

- (ア) 処理対象物の搬入（構成市町）
- (イ) 事業者が実施する業務以外の近隣対応
- (ウ) 運営モニタリング
- (エ) その他これらを行ううえで必要な業務

## 2. 岩手沿岸南部クリーンセンター基幹的設備改良事業整備運営事業者選定委員会

組合は、岩手沿岸南部クリーンセンター基幹的設備改良事業における事業者の選定に当たり、専門的知見に基づき公平かつ客観的な審査を実施するため、岩手沿岸南部クリーンセンター基幹的設備改良事業整備運営事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）を設置した。選定委員会を構成する委員は、表1に示すとおり学識経験者等から選出された次の5名である。

表1 岩手沿岸南部クリーンセンター基幹的設備改良事業整備運営事業者選定委員会委員

氏名	所属・役職
齊藤 貢	岩手大学 理工学部 システム創成工学科 教授
晴山 涉	岩手大学 理工学部 システム創成工学科 助教
八鍬 浩	公益社団法人全国都市清掃会議 技術部長
◎ 平松 福壽	釜石市 副市長
安居 清隆	大船渡市 市民生活部 部長

(◎は委員長)

(敬称略・順不同)

## 3. 審査方法等

### (1) 入札の方法

入札方法は、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号。）第167条の10の2に規定する総合評価落札方式による一般競争入札により実施した。

### (2) 審査方法

本事業では、図1に示す流れで落札者を選定しており、その審査方法については次のとおりである。

入札参加資格審査を実施した後、応募者から提出された事業提案書について、基礎審査を実施した。その後、事業提案書の内容を評価して得点化する非価格要素審査及び入札価格を  
得点化する価格要素審査を実施し、非価格要素と価格要素それぞれの得点の合計を総合評価  
点とし、総合評価点の最も高い応募者を落札候補者として選定した。

このうち非価格要素審査の実施に当たっては、事前に応募者へのヒアリングを実施し、事  
業提案書の内容について理解を深めた。

なお、審査に当たっては、応募者が特定されない呼称（以下「応募者名」という。）を無作  
為に設定し、この応募者名のみが記載された審査資料に基づき審査し、応募者の匿名性を確  
保した。

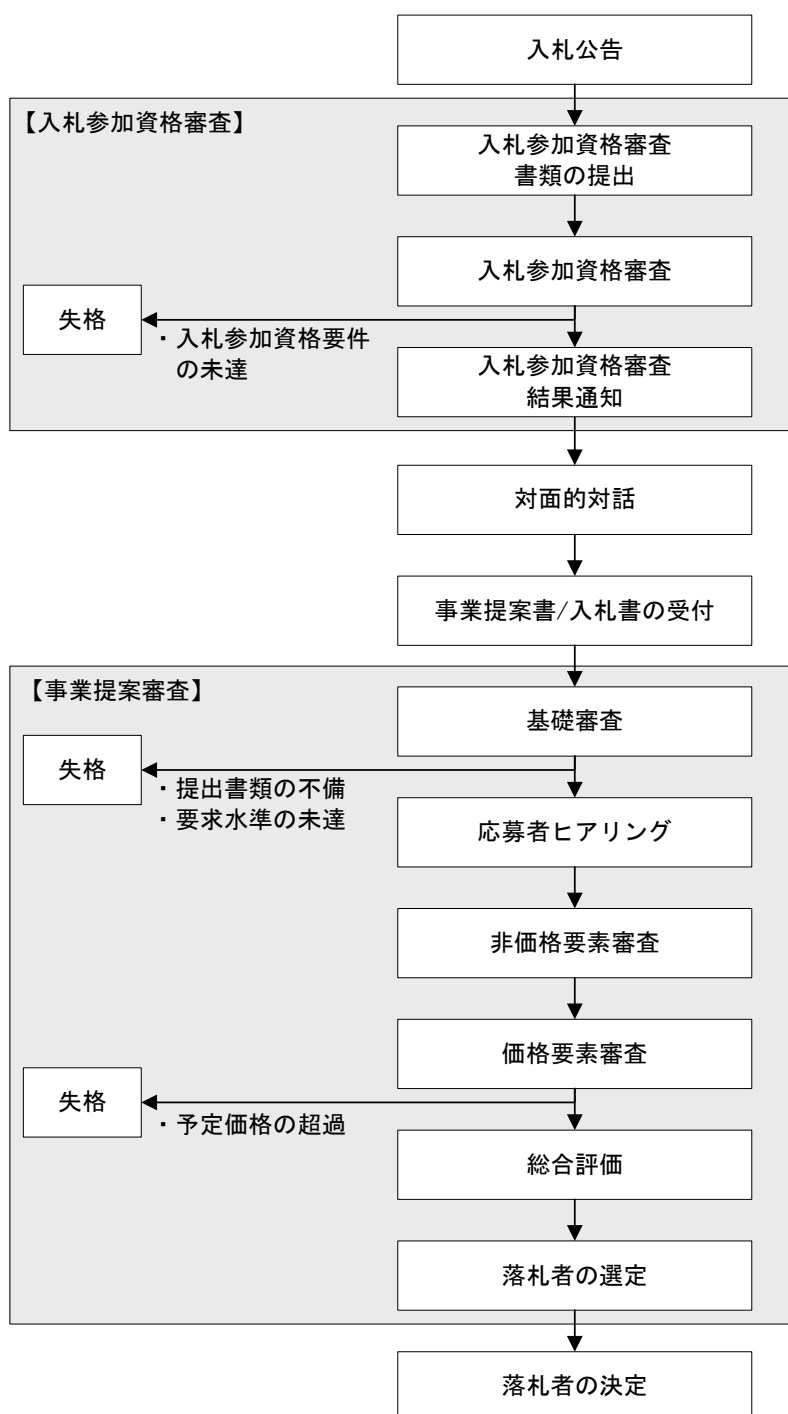


図1 落札者決定までの流れ

#### 4. 落札者決定の経過等

落札者決定の経過等は、表 2 に示すとおりである。

表 2 落札者決定の経過等

日 程	内 容
令和 6 年 9 月 26 日 (木)	第 1 回 選定委員会 (岩手沿岸南部クリーンセンター基幹的設備改良事業の概要)
令和 6 年 11 月 13 日 (水)	第 2 回 選定委員会 (実施方針 (案) 及び要求水準書 (案) の検討)
令和 7 年 1 月 17 日 (金)	実施方針及び要求水準書 (案) の公表
令和 7 年 1 月 31 日 (金)	第 3 回 選定委員会 (落札者決定基準の検討及び特定事業の選定の承認)
令和 7 年 1 月 31 日 (金)	実施方針等に対する質問・意見の受付期限
令和 7 年 2 月 25 日 (火)	実施方針等に対する質問・意見への回答公表
令和 7 年 3 月 3 日 (月)	実施方針等に対する質問・意見への回答の一部修正公表
令和 7 年 3 月 28 日 (金)	第 4 回 選定委員会 (落札者決定基準の検討及び入札公告の関連書類の承認)
令和 7 年 3 月 31 日 (月)	特定事業の選定の公表
令和 7 年 4 月 14 日 (木)	入札公告及び入札説明書等の公表
令和 7 年 5 月 20 日 (火)	第 1 回入札説明書等に関する質問受付期限
令和 7 年 6 月 17 日 (火)	第 1 回入札説明書等に関する質問回答の公表
令和 7 年 6 月 27 日 (金)	入札参加資格審査書類受付期限
令和 7 年 7 月 4 日 (金)	入札参加資格審査結果の通知・応募者名の交付
令和 7 年 7 月 16 日 (水)	第 5 回 選定委員会 (入札参加資格審査結果の確認、応募者審査実施方法の確認、 応募者ヒアリング要領の承認)
令和 7 年 7 月 25 日 (金)	対面的対話
令和 7 年 7 月 30 日 (水)	第 2 回入札説明書等に関する質問受付期限
令和 7 年 8 月 8 日 (金)	第 2 回入札説明書等に関する質問回答の公表
令和 7 年 9 月 9 日 (火)	事業提案書・入札書の受付期限
令和 7 年 10 月 17 日 (金)	第 6 回 選定委員会 (基礎審査結果の承認、応募者ヒアリング、非価格要素審査、 価格要素審査、総合評価、落札者の選定、審査講評)
令和 7 年 10 月 17 日 (金)	落札者の決定

## 5. 審査結果の概要

### (1) 応募者

令和7年4月24日に入札公告した本事業では、1者の応募者から入札参加資格審査書類が提出された。

#### ■ 応募者名：Aグループ

構成員	(代表企業)日鉄エンジニアリング株式会社 日鉄環境エネルギーソリューション株式会社(商号変更により、令和7年10月1日以降、「日鉄環境エネルギーサービス株式会社」と記す。)
-----	---

### (2) 入札参加資格審査

入札説明書で示した入札参加資格要件を応募者が満たしているか否かを審査した。

結果は表3に示すとおりである。なお、入札参加資格審査は、組合において実施した。

表3 入札参加資格審査結果

項目	応募者
	Aグループ
ア 共通の参加資格要件	合格
イ 各業務を行う者の要件	
(ア) 本施設の設計・建設を行う者の要件	合格
(イ) 本施設の運営・維持管理業務を行う者の要件	合格

### (3) 入札参加資格審査結果の通知

令和7年7月4日に、組合から応募者へ入札参加資格審査の結果を通知した。

なお、入札参加資格を確認した応募者は1者であったため、識別のための応募者名(Aグループ)を設定し、委員会において匿名による審査を実施した。

#### (4) 基礎審査

応募者から提出された事業提案書等に記載された内容が、落札者決定基準書に示す基礎審査項目を満たしているか否かを審査した。

結果は表4に示すとおりである。

表4 基礎審査結果

項目	応募者
	Aグループ
◆提出書類の整合確認 ○必要な書類がそろっているか。 ○書類間の整合が図られているか。	合格
◆事業提案書と要求水準書との整合確認 ○提案内容が要求水準を満たしているか。	合格

#### (5) 非価格要素審査

##### ① 評価基準及び得点化方法

応募者から提出された非価格要素審査に関する提出書類は、落札者決定基準書に示す評価項目に対し、表5に示す評価基準及び得点化方法に従い、提案内容を得点化した。

表5 評価基準及び得点化方法

評価	評価内容	得点化方法
A	特に優れており、提案内容に非常に大きな期待ができる	配点×1.00
B	AとCの間であり、提案内容に大きな期待ができる	配点×0.75
C	提案内容に期待ができる	配点×0.50
D	CとEの間であり、提案内容にあまり期待ができない	配点×0.25
E	発注仕様を満たす程度であり、提案内容に期待できない	配点×0.00

注) 点数は、配点が示される評価項目ごとに小数点第3位を四捨五入し、小数点2位まで算出するものとする。

## ② 審査結果一覧

非価格要素審査結果は表6に、非価格要素審査での主な講評は表7に示すとおりである。

表6 非価格要素審査結果一覧

評価項目	配点	A グループ
1 ごみの発電等によるエネルギーを有効活用し、カーボンニュートラル社会に貢献する施設	8	6.00
(1) 廃棄物エネルギーの有効活用	5	3.75
(2) カーボンニュートラル	3	2.25
2 ごみの適正処理及び溶融スラグの資源化が継続できる施設	13	11.55
(1) ごみ量・ごみ質変動への対応	5	4.45
(2) 運営リスク対応	5	4.55
(3) 資源化	3	2.55
3 工事期間中の適正処理及び安全面・リスク面に配慮した施設	16	13.55
(1) 施工計画	8	6.25
(2) 動線計画	5	4.30
(3) 資機材確保	3	3.00
4 地元経済や災害対応に優れた地域社会に貢献できる施設	10	8.45
(1) 地元発注	5	4.05
(2) 災害対応	5	4.40
5 経済性、効率性に優れた施設	3	2.40
(1) 施設の長寿命化	3	2.40
非価格点	50	41.95

表 7 非価格要素審査での主な講評

評価項目	提案内容に対する講評
1 ごみの発電等によるエネルギーを有効活用し、カーボンニュートラル社会に貢献する施設	
(1) 廃棄物エネルギーの有効活用	余剰エネルギーを積極的かつ効率的に有効活用することについての具体的な提案があったことを高く評価した。
(2) カーボンニュートラル	二酸化炭素排出量削減に向けた方策及びカーボンニュートラルに向けた対策についての具体的な提案があったことを高く評価した。特に、ごみ量の変動に対応した運転効率の向上によるエネルギーの安定供給を望む。
2 ごみの適正処理及び溶融スラグの資源化が継続できる施設	
(1) ごみ量・ごみ質変動への対応	ごみ量・ごみ質変動を考慮した安定的かつ適切な施設運営のための具体的な提案があったことを高く評価した。今後は、ごみ量・ごみ質変動に対して、人口減少やライフスタイルの変容に対応した安定操業を望む。
(2) 運営リスク対応	平時及び非常時の運転管理対応策、運営期間におけるセルフモニタリングの手法、施設引渡しに際して運営開始時に施設を継続して円滑に使用するための方策及び運営期間終了後に施設を継続して円滑に使用するための方策のための具体的な提案があったことを高く評価した。
(3) 資源化	溶融スラグ等を確実に有効利用するための方策についての具体的な提案があったことを高く評価した。今後は、溶融スラグ等の利用拡大や副生物の更なる活用方策についても検討を望む。
3 工事期間中の適正処理及び安全面・リスク面に配慮した施設	
(1) 施工計画	本工事における工事関係者及び運営関係者の安全対策、作業エリアが重なる時期における対応策、また、工事期間中のごみの搬出入及び処理に支障をきたさないよう配慮した工事計画について、具体的な提案があったことに加え、工期を遵守するための工程管理手法について優れた提案があったことを高く評価した。
(2) 動線計画	様々な関係車両の円滑かつ安全な動線計画についての具体的な提案があったことを高く評価した。
(3) 資機材確保	施設運営に支障をきたさないよう、特定部品の調達方法、維持管理性や運転操作性を維持可能な特定部品を確保するための具体的な提案があったことを高く評価した。
4 地元経済や災害対応に優れた地域社会に貢献できる施設	
(1) 地元発注	地元企業への発注計画及び本事業における地元人材の活用に関して具体的な提案があったことを高く評価した。今後は、SPCの役割の明確化について、人材確保や費用対効果を高めた運営を行うよう望む。
(2) 災害対応	災害によるライフライン遮断時などにおける安全性、早期復旧策やサポート体制に加え、災害廃棄物の受入体制や対応方法についての具体的な提案があったことを高く評価した。
5 経済性、効率性に優れた施設	
(1) 施設の長寿命化	施設に長寿命化対策を施し、今後さらに安定稼働を20年以上実施することができる対策についての具体的な提案があったことを高く評価した。

## (6) 価格要素審査

応募者の立会いのもとで開札し、予定価格の範囲内であることを確認した。

価格要素審査結果は表8に示すとおりである。価格要素審査は、落札者決定基準書に基づき、入札価格を得点化した。

表8 価格要素審査結果一覧

項目		応募者
		Aグループ
入札価格（税抜き）		19,620,000,000円
内 訳	設計・建設業務費	5,900,000,000円
	運営・維持管理業務委託費	13,720,000,000円
価格点		50.00点

注)  $\text{価格点} = 50 \text{点} \times (\text{最低入札価格} / \text{入札価格})$

得点は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで算出した値とする。

予定価格 : 19,722,340,000円 (消費税及び地方消費税を含まない)  
うち設計・建設業務費 : 5,900,000,000円 (消費税及び地方消費税を含まない)  
うち運営・維持管理業務費 : 13,822,340,000円 (消費税及び地方消費税を含まない)  
入札書比較価格 : 19,722,340,000円 (消費税及び地方消費税を含まない)

## (7) 総合評価点の算出及び落札者の選定

落札者決定基準書に従って表9に示すとおり総合評価点を算出し、総合評価点の最も高い応募者「Aグループ（日鉄エンジニアリング株式会社、日鉄環境エネルギーサービス株式会社）」を落札者として選定した。

表9 総合評価点の算出結果

項目	応募者
	Aグループ
非価格点（配点 50点）	41.95点
価格点（配点 50点）	50.00点
総合評価点（配点 100点）	91.95点

注) 総合評価点 = 非価格点 + 価格点

## 6. 総評

今回の入札に参加した応募者の提案は、本事業の目的及び内容を十分理解したうえで、組合の要求水準を上回るものであり、技術・運営面及び価格面双方において、事業者の創意工夫やノウハウが反映された高い水準での提案であった。

事業提案書の作成には相当の時間と労力を要したものと推察され、応募者に対し心から敬意を表するとともに、深く感謝の意を申し上げる。

選定委員会においては、厳正な審査の結果、応募者Aグループ（日鉄エンジニアリング株式会社、日鉄環境エネルギーサービス株式会社）を、本事業において組合の期待に応えることができる落札者として選定した。

今後は、組合と日鉄エンジニアリング株式会社及び日鉄環境エネルギーサービス株式会社が良好なパートナーシップを構築し、安定したごみ処理の継続を図ることを期待する。

そのため、日鉄エンジニアリング株式会社及び日鉄環境エネルギーサービス株式会社におかれては、公共サービスの担い手として更なる向上を目指し、次の点に留意されたい。

あわせて、委員会としては、これらの留意事項を本事業に適切に反映させるため、組合においても、日鉄エンジニアリング株式会社及び日鉄環境エネルギーサービス株式会社に対し、この内容を明確に伝えるとともに、双方が誠実な協議を重ねることにより、本事業が一層充実したものであることを強く期待するものである。

- (1) 将来のごみ量及びごみ質を考慮した運転計画を立案し、効率的な運転を実施すること。

あわせて、将来的な維持管理体制の構築も見据えた計画とすること。

- (2) 災害廃棄物の処理については、柔軟かつ迅速に対応できる処理体制を構築すること。
- (3) バイオマスチップの安定供給を確保するため、適切な運営を確実に実施すること。
- (4) 持続可能な社会基盤の構築に向け、溶融スラグ等の有効利用用途の継続的な開発・運用を検討し、環境負荷の低減と資源循環の一層の促進を図ること。
- (5) 更なる効率的な事業運営を図るとともに、地元人材の一層の確保・育成に努め、これまで以上に地元への貢献策を講じること。
- (6) 施設の基幹的設備改良工事及び施設維持管理・運営に当たっては、地元中小企業者の健全な育成と地域経済の活性化を図るため、地元中小企業者への受注機会の拡大に配慮すること。

令和7年11月5日

岩手沿岸南部クリーンセンター基幹的設備改良事業整備運営事業者選定委員会

委員長 平松 福壽